



戦後最大の謎、旧日本軍の隠し資産＝

# M資金

敗戦直前、旧日本軍の手によって隠匿された金塊などの財宝(時価数10兆円ともいわれる)。それは続く占領下の時代、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)によって接収され、日本政府の一部を通して戦後復興や反共計画に極秘に運用されてきた。その名を「M資金」。謎に包まれたこの秘密資金をネタに、資金繰りに窮した経営者などから手数料を騙し盗る詐欺事件は、世紀が変わった現在もあとを絶たない。そんなものは最初から存在しなかった、というのが定説になってはいるが……。

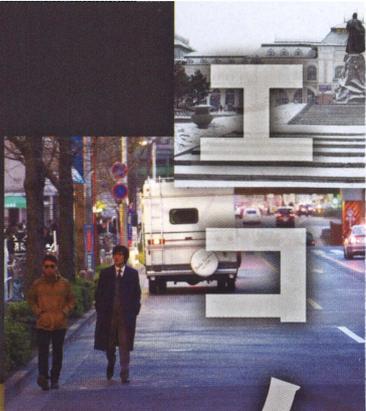
M資金に関する映画の構想が持ち上がったのは、十年以上前。昨年初めに阪本順治監督と、『亡国のイージス』で協働した作家の福井晴敏との共同脚本が仕上がり、実現へと踏み出した。

撮影は極寒の地、ロシアのハバロフスクでクランクイン、ついで、日中は35度を超すタイのカンチャナブリの農村地帯、そしてアメリカ、わけてもニューヨークにある国際連合本部と、まさにグローバリズムの美名のもとに世界を支配する金融経済の奔流を追いかけ、追い越す勢いで行われた。

2008年のリーマン・ショックによって、实体经济を離れた金融資本主義の危うさが露呈されたものの、世界は依然として金融操作で繁栄を維持しようとする“ルール”を中心に動いている。しかもそれは、グローバルといわれながら、地球上のほんの一握りの人間にのみ富を集中させるシステムに他ならない。この“ルール”を変更し、新たな資本主義の在り方を提示するために供されるM資金——『人類資金』。これはそのミステリアスな意匠をまとい、日本から世界に発信する明日への提言である。

邦画初!

# 国連口ケ敢行



# 世界四か国を舞台に展開する エゴニミック・サスペンス

原作・福井晴敏 × 監督・阪本順治 × 主演・佐藤浩市



日本、韓国、アメリカの

# 実力派俳優が結集!

M資金の謎を追う内に、事件に巻き込まれていく主人公・真舟雄一には、阪本作品では、『KT』、『Theショートフィルムズ みんな、はじめはコドモだった/展望台』以来の主演を担う佐藤浩市。物語の鍵を握る謎の人物、“M”役に香取慎吾、“M”の腹心、石優樹役に森山未來。そして観月ありさが防衛省の秘密組織に所属する高遠美由紀を演じる。更に、仲代達矢、オダギリジョー、岸部一徳、石橋蓮司、韓国のスター、ユ・ジテ、アメリカからはヴァインセント・ギャロと、錚々たる顔ぶれが本作に参集した。

STORY

あなたに見てもらいたいものがある。世界が変わる、その始まりの瞬間を

「M資金は、本当にあった」——M資金専門の詐欺師だった父が、謀殺される際に遺した言葉。その跡を継ぐようにM資金詐欺に手を染めながら、真舟雄一の胸には常に拭いがたい疑問があった。父を殺したのは誰か、戦後日本を裏から支配してきたM資金は実在するのか。そんな彼の前に、“財団”の使者と名乗る男・石が現れる。“財団”とは、M資金を管理運営する日米秘密機関の俗称。初めは取り合わなかった真舟だが、次々に起こる異常事態に巻き込まれ、M資金をめぐる争いに宿命的に引き寄せられてゆく。M資金の秘密を守るためには武力行使も厭わない防衛省の職員たち。彼らと敵対し、「M資金を“財団”から盗み出してもらいたい」と真舟に依頼する謎の男“M”。果たして、財団とは何なのか?そしてMの本当の目的とは?幻のM資金を盗み出す計画は、世界を支配するグローバル・キャピタリズムを向こうに回した壮大な戦いへと発展する——。